

第9回「松江市一斉ノーマイカーウィーク」の実施結果について

1 趣旨

マイカー利用の抑制が公共交通の利用促進、渋滞緩和、CO2 排出量の削減に繋がることを市民一人ひとりに啓発し、日常的な移動にあたっての行動変化を促す。

2 概要

(1) 内 容

市民、市内通勤者がマイカーを利用しない日を1日以上設けて実践する。

(2) 実施期間

平成29年9月21日（木）～9月30日（土）の10日間

(3) 今年度重点項目

- ア 事業所への参加依頼は、一律的ではなく、公共交通への転換の可能性等を考慮した上で、地域や業種等を踏まえ、訪問する事業所をピックアップし、行う。
- イ 事業所への依頼にあたっては、依頼文のみでなく、公共交通にまつわる諸施策等を記載した啓発チラシを活用する。
- ウ この取り組みを広く市民に知っていただき、活性化を図るため、広報活動を強化する。
- エ 事後の検証を行い、来年度以降の取り組みに活かしていく。

3 実施結果

(1) 実施計画の検証

分類	実施方針	実施内容	評価指標	目標値 (前年)	実績値
参加促進 キャンペーン	事業所への 働きかけ	・ 郵送による参加呼び掛け ・ 市内事業所への訪問 ・ 市内学校・公民館への参加呼び 掛け	参加事業所数	150 事業所 (144)	150 事業所
		・ 公共交通の利用方法やお得な 情報等を掲載した冊子および 啓発パンフレットの配布	参加者数	3,000 人 (2,700)	4,100 人
	ファミリー層への 働きかけ	・ バスまつり会場内でのチラシ 配布	利用者数	200 人	34 人
広報活動	バスまつり	・ 会場内でのチラシ配布	CO2 削減量	12.0 トン (11.7)	17.9 トン
	のぼり旗の 掲出	・ 宍道湖大橋への掲出			
	チラシ配布	・ 各事業所への配布			

(2) まとめ

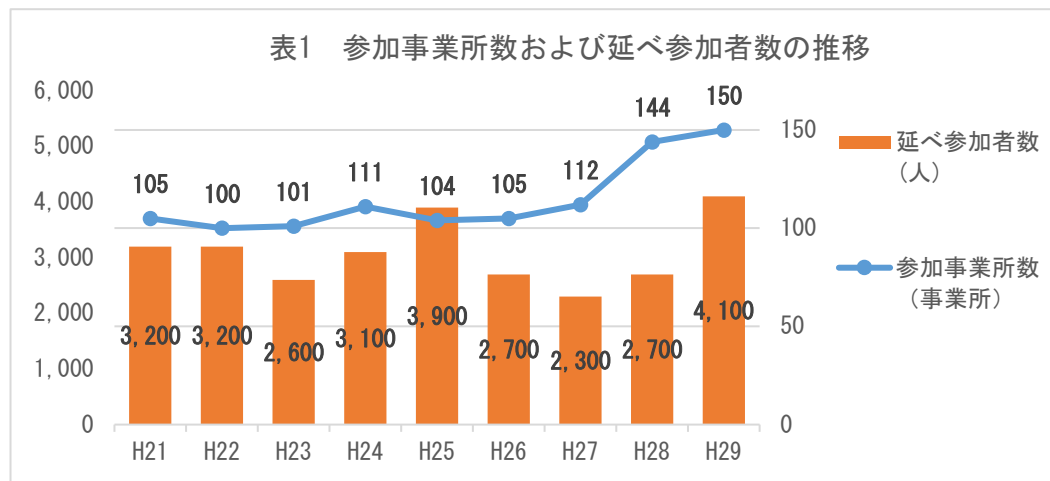
ア 参加状況

①参加事業所数

- ・過去最高だった昨年（144 事業所）を上回る 150 事業所が参加した。
- ・その要因としては、参加事業所数は、訪問による事業所への直接的な働きかけ（34 事業所）や、新たに公民館・小学校等への参加呼びかけを行ったことによる成果があらわれ、新規 45 事業所が参加する結果と考えられる。

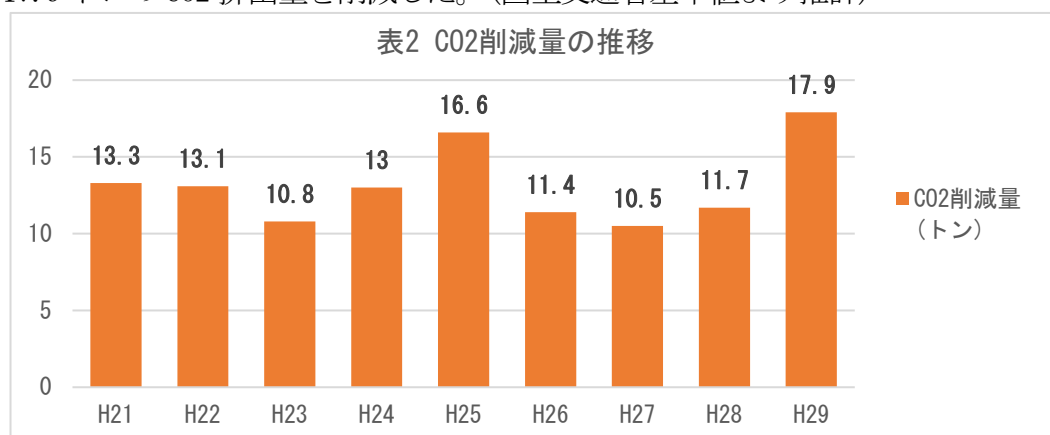
②延べ参加者数

- ・参加者数は、過去最高の 4,100 名がノーマイカーの取り組みを行った。
- ・その要因としては、新たな取り組みとして、公共交通利用の手引き等の啓発資料を配布したことや、休日参加や業務利用の奨励等、「できることから」「できるペースで」「できる部署から」「できる人から」「できる日に」、少しずつ取り組んでいただくよう呼びかけたことで、事業所内での参加呼びかけが促進されたものと思われる。



イ CO2削減量

期間中に参加者がクルマから他の交通手段へ転換したことにより、過去最高となる約 17.9 トンの CO2 排出量を削減した。（国土交通省基準値より推計）



ウ 渋滞長

- ・ノーマイカーウィーク期間前と期間中との比較では、観測地点 6 か所中 4 か所で渋滞長が長くなる傾向が見られた。
- ・その要因としては、今年度の調査が、期間前（9/13 晴）と期間中（9/27 雨一時曇り）で天候が異なる中で実施されたためと考えられる。

※ 例年は、天候がほぼ同じ条件で実施

- ・一般的に、雨の日は、自動車の速度を落として車間を空けて走るため、交通渋滞が発生しやすいと言われている。（出典：首都高速道路㈱ホームページより）
- ・松江市でも、雨予報の日は、自動車交通量の増加や渋滞が発生する傾向があり、今回の結果となったものと思われる。
- ・また、交通量の増加要因としては、普段、徒歩や自転車外出している人がクルマを使用したことや、親が子ども（高校生等）を学校まで送迎したこと等が考えられる。
- ・従って、今回の測定結果については、参考値に留めざるを得ないとする。

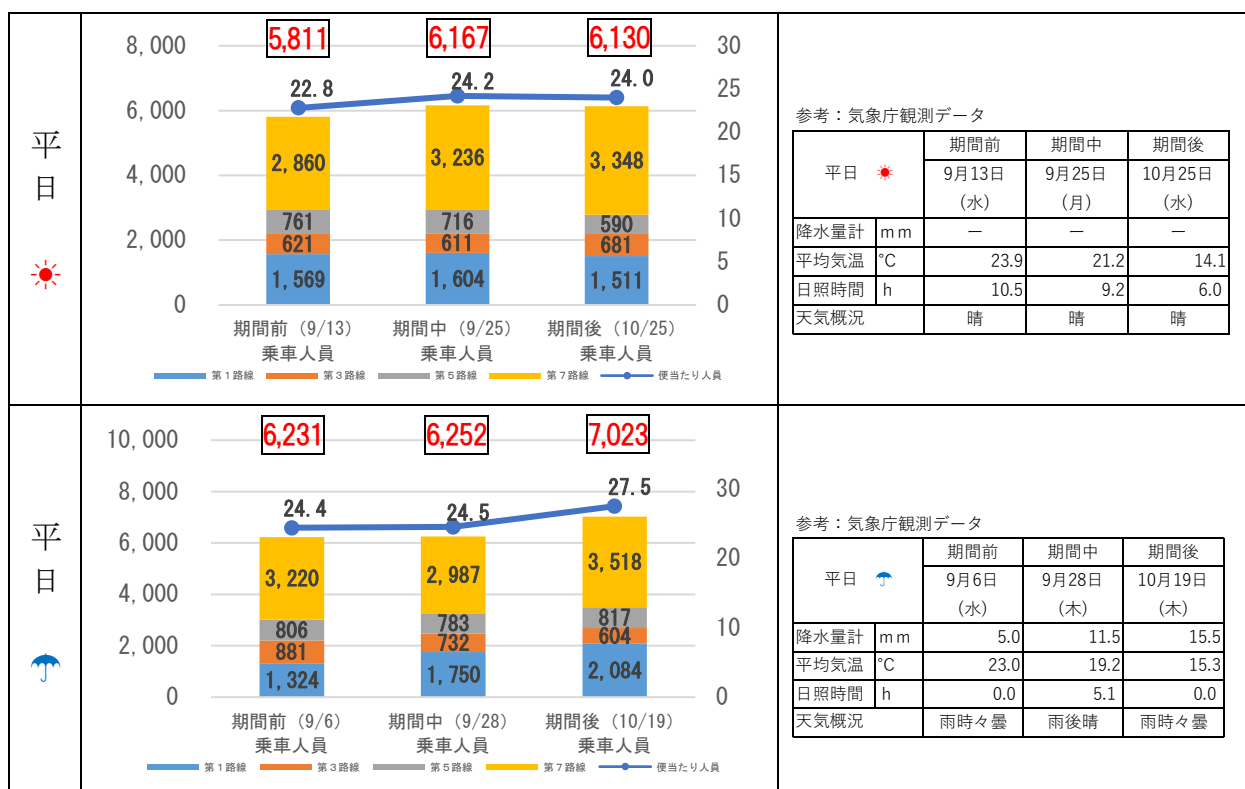
エ バス利用者数

市営バス主要 4 路線の利用者数をみると、ノーマイカーウィーク期間前よりも期間中が増加した。また、期間後も、期間前と比べて増加した。

① 平日

平日☀️では、期間前と比べ、期間中 6.1%、期間後 5.5%の増加

平日☔️では、期間前と比べ、期間中 0.3%、期間後 12.7%の増加

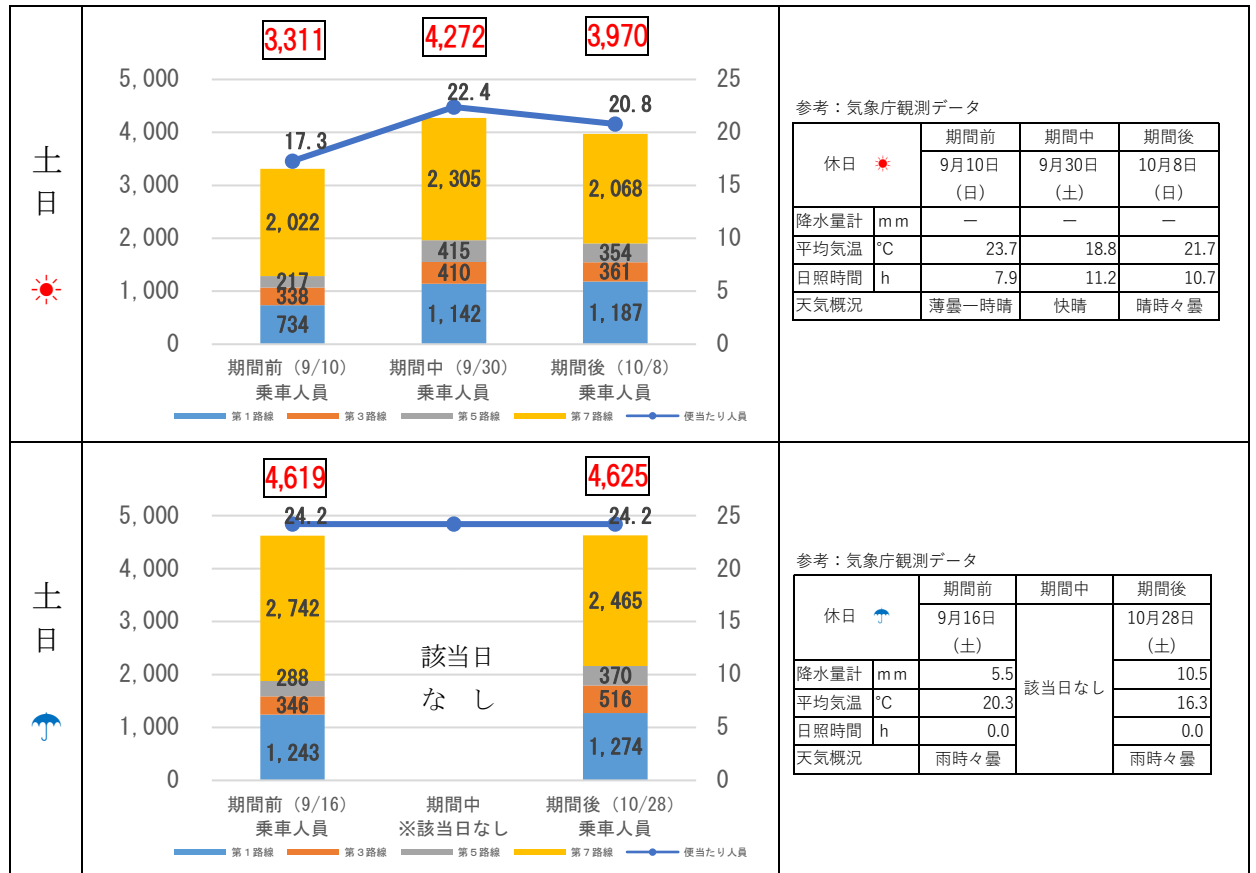


② 土・日曜日

土日☀では、期間前と比べ、期間中 29.0%、期間後 19.9%の増加。

土日☔では、期間前と比べ、期間後 0.1%の増加。

なお、期間中の土・日曜日では、雨天の該当日はなかった。



4 事業所から寄せられた主な意見

ア 公共交通機関に関すること

- ① バスで乗り換えも無く会社まで来ることが分かった。
- ② バスの利用者が多く驚いた。
- ③ 通学にバスを使用している学生が多いことに気づいた。
- ④ 公共交通機関がもっと充実していたら（増便、料金安価等）、もっと実施回数が増えると思う。
- ⑤ ノーマイカーウィークのときだけでも、バスを増便してもらえれば、もっと利用できる。（始業に間に合うバスがない）

イ 渋滞緩和に関すること

- ① 期間中は普段より車が少なく感じた。
- ② 通勤時間帯の渋滞緩和に若干は貢献できた。

ウ 環境負荷の低減に関すること

- ① CO2 削減など、環境について考えるきっかけとなった。

エ 健康増進に関すること

- ① 最寄りのバス停まで歩くことで、日ごろの運動不足解消につながった。
- ② 徒歩、自転車を利用することで健康に良かった。
- ③ 健康増進のため、徒歩や自転車通勤の職員が増えている。ノーマイカー通勤に取り組みやすい職員から広がればと思う。

オ 時間の有効活用に関すること

- ① JR 松江駅まで夫婦でバスに乗って買い物に行った。駐車場を気にすることなくゆっくりと過ごせた。
- ② 移動時間に読書・インターネットで情報を得る等、充実できた。
- ③ 自転車で通勤してみて、思ったより時間が掛からないことに気づいた。

カ 街並みや景色などの気づきに関すること

- ① 駅まで親子でバスに乗って、乗り換えや散歩をしてみた。普段車移動で意識していなかった秋の景色を楽しむことで親子の話も必然増え、日本の四季の移り変わりを目と肌で感じる事が出来た。

キ 気分転換に関すること

- ① 電車からの車窓でリフレッシュした。
- ② 久しぶりに自転車に乗ると楽しい。
- ③ バス通勤すると、乗っている間「ボー」っとできて楽な感じがした。

ク 道路や周辺環境に関すること

- ① 歩道にガードレールやガードパイプが設置されているところは安心して通行できます。重要なことだと感じました。
- ② 自転車道がほとんど無く、不便を感じました。
- ③ 歩道が突然無くなって戸惑う箇所があります。

ケ 事業所内に関すること

- ① 自宅近くのバス経路を知らず、調べている職員が多かった。
- ② ノー残業デーとノーマイカーデーを兼ねることで、お酒を飲みながら社内コミュニケーションが取れた。
- ③ 遠方からの通勤者が多く、公共交通機関が少なくマイカー以外の通勤が困難な社員が多かった。
- ④ 職場に近い職員は歩いて来ているが、5 km以上離れている職員や、子供を保育所に預けている職員はどうしても車になる。
- ⑤ 休日に取り組んだ職員が多く、期間中以外の休日では、同様の取り組みができるよう、呼びかけると良いと感じた。
- ⑥ 「車の利用を控える」という、職員同士の共通認識が生まれ、結果職員同士の団結力が強くなった。

コ その他

- ① 地域に多少なりとも貢献できるという意識が持てた。本人の気持ち次第で参加できる。
- ② 地域の方と挨拶する機会が増えた。